

さんきマルシェ

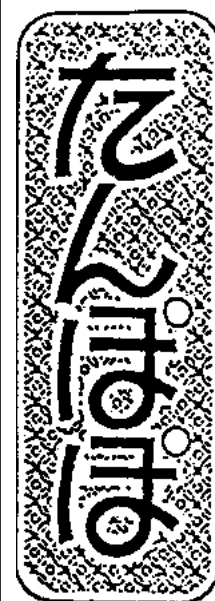
よかほ ゆかいな ミニコンサート



さんきカフェ



コロナ禍の規制の中で、利用者さんが楽しめる事を理事長先導の元、スタッフ一丸となって行っています。



No. 395

R2年6月1日

— 発行 —

〒869-1217

熊本県菊池郡

大津町森 54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



1 班：「初めての経験」

新型コロナの影響で、現在 3 ヶ月皆さんの帰宅が出来ない状況になっています。そんな中でも、日々の日課は変更が無いように、平日は作業に取り組み、休日はゆっくりとされています。

この 3 ヶ月利用者の方も、人生で初めての経験を沢山されています。まさに利用者の方にとっても「緊急事態」です。誕生日に、生まれて初めて親と一緒に過ごせなかった人、GW に初めて帰宅をしなかった人、いつもは母親と一緒に衣替えをするのをスタッフと初めて衣替えをした人と、その他色々新型コロナの影響で、「初めて」と言う経験をした人が多数います。初めての経験をさせるスタッフもドキドキ、それ以上に利用者も「何で？何か違う？」とドキドキ、またまたそれ以上に保護者も「大丈夫かしら？」とドキドキ。しかし「初めて」の経験にドキドキしながら、新たに 1 歩成長しました。「初めて」の経験を頑張った利用者にも、スタッフは心からエールを送っています。 支援員 八木 良江



2 班：「会える日を信じて」

今年のゴールデンウィーク。残念ながら新型コロナウイルスの影響で帰宅を諦めざる得ない状況にありました。「お父さん、お母さんに会いたい…」と心の声が響きました。多くの方がつらい決断をしています。一方、有り難いことに新型コロナウイルスの影響もなく、フルーツネットとベビー用品の作業は納期に追われる毎日です。一日一日を精一杯、仕事に取り組む姿があります。働く意味と、仕事があることの大切さを実感し、感謝の日々です。保護者の方々も、きっと今度帰ったら、たくさんの大好物を並べ、笑顔で食卓を囲もうと思われていることでしょう。

どんなに離れていようとも、人を思う気持ちは伝わります。三気の里の皆さんはお元気です。もうすぐ会える日を信じて… 支援員 牛島真由美



3 班：「いきいき作業中」

以前、ダイレックスさんより受けていた、野菜の袋詰め作業が 3 月より復活し、お蔭様で平日はその作業で忙しくさせて頂いています。R さんは朝から「今日はどのくらいの量来るかな？」とやる気満々です。S さんも「野菜します！」と張り切ります。今、袋詰めしている野菜は、玉葱、じゃがいも、きゅうり、人参、ごぼうなどです。どれもそれぞれ決まった入れ方があるのですが、皆さん慣れた手つきでどんどん作業を進めていきます。今、世の中は大変な時期ですがいきいきと作業をされる姿を見て、自分も毎日元気を頂いています。これからも利用者の皆様と共にばりばり頑張ります。

支援員 藤本身知子



4 班：「終わりを信じて」

春も終わりいよいよ夏を迎えようとしていますが、新型コロナウイルスはまだまだ猛威を振るい厳しい状況が続いています。私は現在感染症対策の為通所利用者さんと活動を共にしており、4 班さんとは顔を合わせる機会が殆どない状況です。しかし、スタッフの電話を借りて連絡をして下さる利用者さんの声を聴いたり、日々の活動の記録を読むと利用者さんも元気に過ごされていると感じます。

そんな中でも、よく私に電話を掛けてくれる N さんは私がコロナに感染していないかとても気に掛けて下さいます。N さんに心配を掛けさせない為にも私も再度感染予防に努め直さなければならないと感じました。なかなか出口の見えないトンネルですが、必ず終わりはあると信じて、今はそれぞれの場所で頑張りたいと思います。

支援員 清田 健士郎



5 班：「不安の中にも楽しさを」

新年度がスタートしたもののコロナの影響でいつもの 5 班メンバーでなく、家から通っている利用者さんと一緒に活動しています。朝の検温や消毒で一日が始まり、到着後は作業→作業棟で昼食→歯磨き→散歩→作業 という一日の流れです。基本は、作業棟での活動なのですが、午後になると散歩に出ます。桜が綺麗な頃は弁当を注文しました。外出自粛の為、バスの中で窓を開けての花見でしたが、みんなとても楽しそうにされていました。他にも、空いた時間に絵を描いたり、折り紙をおったり等の製作活動もしています。

作業に集中できなかった利用者が、製作を楽しみに登所してすぐに集中して作業に取り組むようになりました。製作した作品は作品展示会等で披露できるように取り組んでいきたいと思っています。コロナウイルスがいつ収束するか分からず、不安な日々が続いています。いつもの生活に戻るまでみんなで楽しみを見つけて頑張って乗り越えたいと思います。

支援員 玉永 咲希



支援課：「寄り添った支援を」

利用者の方の支援に携わる上で、支援者は利用者の“声なき声”に気付く、利用者の変化に敏感になるということ、常に意識しておくべきことだと考えています。現状のコロナ禍においては、三気の里でも新型コロナウイルス感染拡大防止体制をとり、施設入所及び GH 入居者の利用者の方々の帰省や外出の制限をさせて頂き、3 ヶ月近くが過ぎようとしています。この体制になり、利用者の方々の変化や気付きを支援者間で共有出来るよう資料を作成し、利用者の変化に気付いた支援員が記録を残し、その他の支援員はその情報を、利用者の方々と関わる際の配慮点と捉え、チームとして利用者の方々と関わるようにしています。体制が始まった 3 月に利用者の方が気にされていたことも、2 ヶ月 3 ヶ月と経過し、気になることは時間の経過と共に変化していると感じています。

当初は普段であれば実施されていた帰宅が制限され、週末の帰宅を実施出来ない状況の中で、帰宅を気にされていた利用者の方も、月日の経過と共に、帰宅以外の事柄（例年実施されている行事等）への意識も見られ始めています。日々変化する利用者の方々の思いや感情に敏感になり、その思いに寄り添いその場その場で必要な支援を常に考えながら、この状況を一緒に乗り越えていきたいと思っています

支援課長 岩田 幸児



【療育雑記】

「向き合ってみる」

業務課長 松本慎太郎

昼食後の休憩の際に、スタッフの手違いでAさんとB

さんが6畳ほどの部屋で2人だけで一緒に過ごすことになってしまいました。Aさんは在宅の方で、Bさんは入所の方です。Bさんは全く会話が

できない方で、嫌なことがあると抓ることで表現してしまいます。その時、何があったのかはスタッフがいなかった

ので、分からないのですが、大きな声が聞こえてきたことで気付き、すでにAさんがB

さんを叩いている状況でした。おそらくBさんがAさんをおそらくの理由で抓ったからだと思います。すぐに二人を引き離しました。Aさんはその後も興奮した様子でした。別の小部屋でクールダウンを図り、午後の活動に参加しまし

たが、Cさんに対して再度、興奮する様子が見られました。Bさんと似た色の服を着ていたことが要因のようでBさんではないことを説明すると、その後はCさんに対して興奮することなく過ごし、自宅に帰られました。翌日、A

さんが来園した際、興奮状態でした。昨日のことを気にして「抓ってきた」「警察に通報する」という発言がありました。Bさんの話をするとより険しくなり顔を赤らめる

(力が入る)様子でした。Aさんは以前利用していた施設で利用者同士のトラブルを起こしていたことがありました。何年も前のことです

が未だにそのことを言います。その施設でどのような対応をしたのかは分からなかったのですが、本人の中で消化しきれていない何かがあるのでは

かと思っています。Aさんの特性や様子からBさんを見た

ら興奮するのは目に見えていました。いろいろと方法はあるかと思いますが、向き合っ

て解決した方がお互いのためにも良いのではないかと考え、Aさんに謝罪し合うことを提案しました。すると本人も

「謝る」と言ってくれました。Aさんがいる部屋にBさんを連れていくと、すぐに本人から「ごめんなさい」と謝る

ことができました。しかしBさんは言葉で謝れないため、お辞儀をしたのですが言葉で

言わないことに対して「謝らんか」と大声を出してしまいました。AさんがBさんに向

Aさんは「分かった」と言って表情が和らぎました。明確な謝罪の言葉ではありませんでしたが、言葉を発したことが納得する要素になったようです。

今回、スタッフの配慮ミスでトラブルになってしまいました。トラブル後の対処法はいろいろあるかと思えます。Aさんの過去の事例や特性

など鑑みて対応したつもりでした。Aさんはその後、Bさんに対して反応することなく

過ごすことができています。同じ空間でも過ごせました。トラブルにはなってしまうことができていたのではと思

っています。



【苦情解決】

「第三者委員の取り組み」

業務課長 松本慎太郎

三気の里では、苦情解決の仕組みとして、第三者委員（弁護士1名、民生委員1名、監事1名）の方をお招きして、意見・苦情報告会を年に3回実施しています。苦情などの報告をし、改善策などの助言、指導を頂いています。また、利用者本人が第三者委員の方に直接お話をする時間も設けており、希望する方は自由に話をする事ができます。しかしながら三気の里において、自分の意思を明確に言葉で伝えることが難しい方が多く、苦情という観点においても、伝えられる方は僅かで、何も話さない方、「何かありますか?」と聞かれ「ありません」と答える方、自分の今後の予定を話す方など様々です。中には支援者として襟を正さなければならぬようなご意見もあり、施設職員としてどうあるべきか考える良い機会と捉えています。施設運営は利用者の方と共同で行う

ことが望ましいと思います。苦情解決の仕組みはその一旦を担っていると考え、今後も取り組んでいきたいと思えます。



【グループホームの

ゴールデンウィーク】

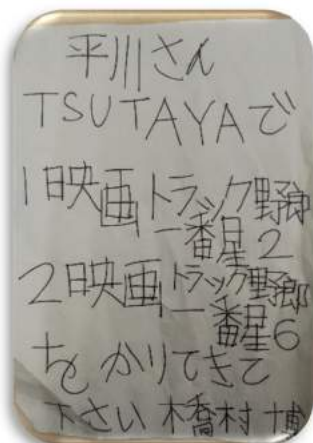
事業課長 平川 聖子

5月2日から6日まではゴールデンウィークの在宅期間。通常なら自宅に帰って家族と過ごされる方も多いのですが、今年にはコロナウィルスの感染対策で18名の入居者全員が在宅となりました。入居者の中には、帰宅を期待されているような様子が見られた方もありましたが、寂しさや辛さを払拭できるように、退屈されないようにと、午前中は生活課題、午後は余暇活動を組み合わせたスケジュールと、計算・言葉・文字のドリル、ぬりえ、パズルなど個別で取り

組める課題を準備しました。

スタッフの心配をよそに、入居者の皆さんは自分の好きな課題を選んで取り組み、他の人がやっているのを見ては興味を持ってチャレンジと、朝から晩まで「勉強」されていました。一番人気だった課題はスクラッチアート。絵に自信がない人でも、丁寧に線をなぞって削ると綺麗な作品になるのが嬉しいようで、準備した物から次々に取り組んでいかれました。絵を描くのが好きなSさんは、真っ黒なスクラッチシートに絵を描いてオリジナルの素敵な作品を作られていました。また、パズルの達人のNさんやSさんは真っ白な難解パズルにチャレンジ。ウーンと頭を捻りながら2日、3日かけて完成出来ました。他にも、音楽鑑賞、DVD鑑賞、散歩、体操、おやつ作りなどなど、各々がくつろぎ、そして楽しみのある休日が過ごせたと思います。ご家族に会えたら、元気で頑張っていたことを沢山お話ししたいと思います。

～ GHの様子 ～



6月スケジュール

三気の里

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 2 (火) 嘱託医来診 | 11 (木) 健康診断 |
| 4 (木) 訪問理容サービス | 12 (金) 訪問理容サービス |
| ローソン移動販売 | 13 (土) 令和3年度職員採用選考 |
| 5 (金) 訪問理容サービス | 14 (日) 陣内食堂 |
| 8 (月) 訪問理容サービス | 17 (水) 三気の会評議員会 |
| 9 (火) 苦情解決第三者委員会 | 18 (木) ローソン移動販売 |
| 10 (水) さんきマルシェ&演奏会 | 25 (木) ローソン移動販売 |
| | 26 (金) 訪問理容サービス |

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 井手上昌子様 | 井上 優様 | 金森 保様 |
| 田中 満子様 | 坂口 正浩様 | 魚谷 秀文様 |
| 森川 琇介様 | 中原 喜徳様 | 春野 宗敏様 |
| 赤星 央子様 | 上野 育夫様 | 坂梨 清美様 |
| 水田 妙子様 | 田口 康博様 | 櫻木 勇夫様 |
| 松枝 英子様 | 松枝 英子様 | 亀崎 幸久様 |
| 渡邊 正司様 | 水田 妙子様 | 柴田 精三様 |
| 吉田 和信様 | 森川 琇介様 | 井口チズヨ様 |
| 井上ちえ子様 | 田中 満子様 | 井上ちえ子様 |

【その他物品】

※順不同

- 東京エレクトロン様
 大阪町社会福祉協議会様
 フロンティア企画様
 (一社)かまこん様
 (合)Reamour様
 西村 栄子様 田中 満子様
 田口 康博様 清田 栄一様
 【マスク】
 三気の里家族会様
 亀崎 幸久様
 ※順不同

寄付ありがとうございました

- | | |
|------------|--------|
| 今池 隆則様 | 藤井 法仁様 |
| 中嶋 久枝様 | 中嶋 宏幸様 |
| 春野 宗敏様 | 荒川 信子様 |
| 田中 基幹様 | 上田 祥子様 |
| 魚谷 康洋様 | 松枝 由香様 |
| 松枝 英子様 | 中原 喜徳様 |
| 本田 瑞恵様 | 高橋 頌慈様 |
| 岡崎 範子様 | 山崎日出男様 |
| 山下ちづる様 | |
| Reフレッシュ | 今村義頼様 |
| 福島循環器科内科医院 | 福島敬祐様 |

※順不同

【後援会】

後援会ありがとうございました

- 堀内 興様 松村 俊介様
 島田 正博様 相良 勝郎様
 (有)本田硝子様 荻原 久雄様
 水田 妙子様 寺本 征史様
 財賀 由子様 櫻木 勇夫様
 前田 恭男様 藤岡 祐機様
 吉田 憲司様 大嵐 直希様
 村嶋 元子様 牛島 敏章様
 清藤 節子様 木下 祐一様

◆編集後記◆ 金田 紘和

新型コロナウイルスによって私たちの生活は大きく変わってきました。他の業種ではテレワークやソーシャルディスタンスを意識した働き方を取り入れられ始めています。

私たちの働く福祉の現場ではスタッフや利用者さんとの離れての生活は難しいものがあります。しかし、その分、利用者さんの楽しい、嬉しいといった感情を共有できたり、仕事を頑張っている姿を一番近くで見ることができたりします。これからも、施設全体で感染症予防に努めつつ、人との関わりがある温かい施設で成長させて頂きたいと思えます。

手を洗おう 消毒しよう うがいしよう
 マスクしよう 換気しよう うちで過ごそう